

# 要介護認定 認定調査手引き 広島市版

この手引きは、介護認定調査員テキスト2009改正版のポイントをまとめたものです。認定調査の参考にしていただき、また、認定調査の下書きとしてもお使いください。広島市ホームページにも掲載しています。ダウンロードしてご活用ください。

- 調査項目を群ごとに整理し、いくつかの項目に共通する留意事項は、項目の前にまとめて網掛けし表示しています。
- 基本項目ごとに評価軸、定義、選択時の調査の視点や留意事項のポイントを掲載しています。
- 【状況】の欄は、調査の下書きとして利用する場合に、特記事項の記載メモ欄としてお使いください。

平成31年3月

広島市健康福祉局高齢福祉部介護保険課

## 基本調査 認定調査手引き

調査日: 年 月 日( )

調査員所属事業所:

調査員氏名:

## [第1群:身体機能・起居動作]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
第1群 共通		・可能な限り、実際に確認動作等を行ってもらおう。 ・確認動作を行った状況と日頃の状況とが異なる場合は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。確認動作を行ってもらえなかった場合も同様にする。 * 確認動作の試行状況等を記入	
		・福祉用具(補装具や介護用品等)や器具類を使用している場合は、使用している状況で選択する。	
(1-1~2) 共通		《確認動作を行ってもらった場合》	
		・本人または家族の同意の上、ゆっくり動かして確認動作の実施をする。	
		・対象者が痛みを訴える場合は動作の確認を中止し、そこまでの状況で選択する。	
		《確認動作を行ってもらえない場合》	
		・危険と判断される場合は確認は行わない。	
		・理由や状況を具体的に聞き取り、日頃の状況で選択する。	
・「欠損」がある場合は、動作が行えない部位の選択肢と「その他」を選択する。			
(1-1) 麻痺等	◇ 有無 (能力と 同じ)	1. ない 2. 左上肢 3. 右上肢 4. 左下肢 5. 右下肢 6. その他(四肢の欠損)	
			【確認動作】
		上肢:肘関節を伸ばしたまま、腕を自分で持ち上げ、静止した状態で <b>保持</b> 。 座位の場合、前方及び横方向に肩の高さまで(仰臥位では、前方頭上に挙上) ・軽度の可動域制限は、関節の動く範囲で行う。	
		下肢:膝を伸ばす動作により、下肢を水平位置まで持ち上げ、静止した状態で <b>保持</b> 。 大腿部が椅子や枕(仰臥位の場合)から離れないこと。 ・軽度の可動域制限は、関節の動く範囲で行う。	
		その他:上肢、下肢以外に麻痺等がある場合、具体的な <b>部位と状況</b> について確認する。	
		【状況】	
(1-2) 拘縮	◇ 有無 (能力と 同じ)	1. ない 2. 肩関節 3. 股関節 4. 膝関節 5. その他(四肢の欠損)	
			【確認動作】
		肩:前方あるいは横のいずれかに可動域制限があれば選択する。	
		股:屈曲(90度)または外転(膝の内側を25cm離す)のいずれかに可動域制限があれば選択する。	
		膝:伸展もしくは屈曲方向のいずれかに可動域制限があれば選択する。	
		その他:肩関節、股関節、膝関節以外に拘縮や可動域制限がある場合、具体的な <b>部位と状況</b> について確認する。	
90度程度曲がれば「制限なし」となるため、必要以上に動かさないようにする。			
		【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項） * 特記事項の記載内容	確認
(1-3~9) 共通		<<調査手順>> ・安全を確認した上で、確認動作を行う。手の届くところにつかまるものや支えがない状態で、できるかどうか、何かにつかまったり、 <b>支えがないとできないのか</b> を確認をする。 ・「つかまれば可」とは「つかまらなければできない」のこと	
		・「日頃の状況」とは「日頃の <b>能力</b> 」であり、「日頃の生活の状況」ではない。 ・「日頃の能力」:「できる」か「できない」かの能力で選択する。  (例)日頃ソファーにもたれていることが多い(日頃の生活の状況)ではなく、食事の時間は背もたれがなくても <b>座位保持ができる(日頃の能力の状況)を参考にする。</b>	
(1-3) 寝返り	○ 能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		ふとん等をかけない状態で、横たわったまま、左右のどちらかに身体の向きを変え、そのまま安定した状態になること。  片側だけでも可。横向きに寝た状態から、うつ伏せでも可。きちんと横向きにならなくても、上半身のみ横になり安定した状態でもよい。 ・一度起上ってから向きを変えるのは、寝返りではない。	
(1-4) 起き上がり	○ 能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		ふとん等をかけないで寝た状態から、上半身を起こすこと。 ・起き上りの経路は限定しない。(※ギャッチアップ機能を使わない状態で選択する。)	
(1-5) 座位保持	○ 能力	1. できる 2. 自分の手で支えればできる 3. 支えてもらえばできる 4. できない	
		【動作確認】	
		背もたれの無い状態で <b>10分</b> 程度、座り方は問わない。 ・「3. 支えてもらえばできる」とは「 <b>支えがないとできない</b> 」場合をいう。 ・「4. できない」とは、「①水平な体位しかとったことがない、②医学的に制限されている、③背骨や股関節の状態により体幹の屈曲ができないに場合」をいう。 ・食事の時や、病院の診察場面での様子を参考にきくのもよい。	
(1-6) 両足での立位保持	○ 能力	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		<b>10秒</b> 程度。立ち上がるまでの行為は含まない。	
(1-7) 歩行	○ 能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		平らなところで、 <b>継続して5m</b> 程度。	
(1-8) 立ち上がり	○ 能力	1. つかまらないでできる 2. 何かにつかまればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		<b>膝がほぼ直角</b> に屈曲している状態からの立ち上がり。 ・机等に前になにもない状態で行う。必要なら支えるものが、横にある状態で実施する。	
(1-9) 片足での立位	○ 能力	1. 支えなしでできる 2. 何か支えがあればできる 3. できない	
		【動作確認】	
		左右いずれか、 <b>1秒</b> 程度。	
		【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項） * 特記事項の記載内容	確認
(1-10~11) 共通		・具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。* 具体的な介護の手間と頻度。 ・「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が、対象者にとって「不適切」であると認定調査員が判断する場合は、その判断根拠となる事項を聞き取る必要がある。	
(1-10) 洗身	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助    4. 行っていない 全身を洗うこと。定義には入浴行為、洗髪は含まない。 ・清拭のみの場合は、「4. 行っていない」を選択する。 【状況】	
(1-11) 爪切り	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 爪切りの準備から、切った爪を捨てるまでの一連の行為のことをいう。 ・調査日より概ね過去1か月の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。 ・左右どちらか片方の手の爪のみ切れる、手の爪はできるが足の爪はできない等の場合。 →「一部介助」を選択。 【状況】	
(1-12) 視力	○ 能力	1. 普通(日常生活に支障がない)    2. 約1m離れた視力確認表の図が見える 3. 目の前に置いた視力確認表の図が見える    4. ほとんど見えない 5. 見えているのか判断不能 <div style="text-align: right;">【視力確認票で確認】</div> ・新聞、雑誌の字が、 <b>見えるかどうか</b> 。実際に視力確認票の図を見せて評価する。 ・視力確認表は本人の <b>正面</b> に置く。視野狭窄・視野欠損の場合も同じ。 ・メガネ、コンタクトレンズ等を使用している場合は、使用している状況で選択する。 【状況】	
(1-13) 聴力	○ 能力	1. 普通    2. 普通の声がやっと聞きとれる    3. かなり大きな声なら何とか聞きとれる 4. ほとんど聞こえない    5. 聞こえているのか判断不能 <b>聞こえるかどうか。</b> ・日常的に補聴器等を使用している場合は、使用している状況で選択する。 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

## [第2群:生活機能]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
第2群 ＜介助の方法＞ 共通		・具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。* 介護の量:具体的な介護の手間と頻度	
		・一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況で、より頻回に見られる日頃の状況で選択する。	
		・福祉用具(補装具や介護用品等)や器具類を使用の場合は、使用している状況で選択する。	
		・「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が、対象者にとって「不適切」であると認定調査員が判断する場合は、その判断根拠となる事項を聞き取る必要がある。	
		・「見守り等」の項目は、常時の付き添いの必要があるものや、認知症高齢者等の場合に必要となる行為の「確認」「指示」「声かけ」のこと。	
(2-1~2) 共通	・調査対象の行為自体が発生しない場合は、調査の定義のような行為が発生した場合を想定 のうえ、適切な介助の方法を選択し、その選択根拠となる事項を聞き取る必要がある。		
★ (2-1) 移乗	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 でん部を移動させ、いす等へ乗り移ること。清拭・じょくそう予防目的の体位交換も含む。 ・座位⇒歩行⇒座位(着座)は、移乗ではない。 【状況】	
★ (2-2) 移動	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「日常生活」において、食事や排せつ、入浴等で必要な場所への移動。 ・外出行為は含まない。 ・移動が発生する場面を特定し、頻度を把握するとよい。 * 特記事項は、必須。外出時の介護の手間の手間は、「2-12:外出頻度」と関連付け、 軽度者は転倒の有無も記入。問題ない場合は「問題なし」と記入。 【状況】	
(2-3) えん下	○ 能力	1. できる 2. 見守り等 3. できない 食物を経口より摂取する際の「えん下」(飲み込むこと)の能力。評価軸は能力。 ・「できる」、「できない」のいずれにも含まれない場合は、「見守り等」を選択。 【状況】	
★ (2-4) 食事摂取	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 配膳後の食器から口に入れるまでの行為のこと。経管栄養の際の注入や中心静脈栄養 含む。 ・朝昼夕で介護の方法が異なる場合は、より頻回にみられる状況で選択。 ・調理(台所等での刻み、ミキサー食の準備)配膳、片付け、食べこぼしの掃除等は含ま ない。* 定義に含まれない介護の手間は聞き取り、特記事項に記入。 【状況】	
(2-5~6) 共通		・認知症高齢者等をトイレ等へ誘導するために必要な「確認」「指示」「声かけ」は、『見守 り等』で評価。 * ①排泄方法(トイレ・ポータブルトイレ・おむつ等)・②回数・③失禁・失敗の有無と介護 の手間・④昼夜の違い等を確認し、特記事項に記入。	
★ (2-5) 排尿	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排尿動作」「陰部の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ等の排尿後の掃除」 「オムツ、リハビリパンツ、尿とりパッドの交換」「抜去したカテーテルの後始末」の一連の 行為。* 特記事項は必須。問題なければ「問題なし」と記入。 【状況】排泄方法 ( 回/日中、 回/夜間)失禁の有無 有・無	
★ (2-6) 排便	◎ 介助の 方法	1. 介助されていない 2. 見守り等 3. 一部介助 4. 全介助 「排便動作」「肛門の清拭」「トイレの水洗」「トイレやポータブルトイレ、排便器の排便後の 掃除」「オムツ、リハビリパンツの交換」「ストーマ袋の準備、交換、後始末」の一連の行為。 【状況】排泄方法 ( 回/日中、 回/夜間)失禁の有無 有・無	

★印:個人差の大きい調査項目。具体的な介護の手間と頻度を、より詳しく聞き取ると良い。

## 基本調査 認定調査手引き

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項） * 特記事項の記載内容	確認
(2-7~9) 共通		・洗面所への誘導、移動は含まない。→(2-2)移動で評価 ・洗面所周辺の掃除等は含まない。 ・初動の声かけは含まない、動作中の見守り等(確認、指示、声かけ)が行われている場合は、「一部介助」に含まれる。 * 介護の量:具体的な介護の手間と頻度	
(2-7) 口腔清潔	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 「歯ブラシやうがいの水の用意」「歯磨き粉を歯ブラシにつける等の準備」「義歯をはずす」「うがいをする」等の一連の行為。 義歯は義歯の清潔保持でみる。 【状況】	
(2-8) 洗顔	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 「タオルの準備」「蛇口をひねる」「顔を洗う」「タオルで拭く」「衣服の濡れの確認」等の一連の行為。 ・「洗顔」を行う習慣がない場合は、入浴後に顔をタオルで拭く介助や、ベッド上で顔を拭く行為などの類似行為で代替して聞き取る。 【状況】	
(2-9) 整髪	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 「ブラシの準備」「整髪料の準備」「髪をとかす」「ブラッシングする」等の一連の行為。 ・頭髪がない、短髪などの場合は、頭を拭く行為などで代替して聞き取る。 【状況】	
(2-10~11) 共通		・普段使用している、衣服の着脱に介助が行われているかどうか。 ・時候にあった衣服の選択、準備、手渡し等、着脱までの行為は含まない。 ・「着脱」の行為は自力で介助なしで行っているが、着る順番が分らないので、1枚ずつ声かけしながら衣服を手渡している場合。→「見守り」を選択。 * 介護の量:具体的な介護の手間と頻度	
(2-10) 上衣の着脱	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 見守り等    3. 一部介助    4. 全介助 【状況】	
(2-11) ズボン等の着脱	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 見守り等    3. 一部介助    4. 全介助 ズボン等をはかない場合はパンツ、おむつの着脱の行為で代替して聞き取る。 【状況】	
(2-12) 外出頻度	◇ 有無	1. 週1回以上(      回/週) 2. 月1回以上 (      回/月) 3. 月1回未満(      回/年) 調査日より概ね過去1か月に、 <b>1回30分以上の敷地外</b> へ出る頻度の確認。 ・外出の目的や、同行者の有無、目的地等は問わない。 「2-2:移動」と関連して、外出の頻度と方法を聞き取る。 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

## [第3群:認知機能]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
(3-1~7) 共通		・認知症等がある場合、「できる」を選択した場合でも、選択の根拠を聞き取ることが重要となる。(特に、要支援2と要介護1の振り分けの際に必要となる。) ・調査当日の状況と日頃の状況が異なる場合は、一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回な状況に基づき選択する。	
(3-1) 意思の伝達	○ 能力	1. 調査対象者が意思を他者に伝達できる 2. ときどき伝達できる 3. ほとんど伝達できない 4. できない 伝達する意思の内容の合理性は問わない。 【状況】	
(3-2) 毎日の日課 を理解	○ 能力	1. できる 2. できない 起床、就寝、食事等の大まかな内容について、理解していること。 【状況】	
(3-3) 生年月日や 年齢を言う	○ 能力	1. できる 2. できない 生年月日(数日のずれ可)か年齢(2歳までの誤差可)のいずれか一方で可。 【状況】	
(3-4) 短期記憶	○ 能力	1. できる 2. できない 調査直前にしていたことを把握しているか。確認が難しい場合のみ、3品テストを実施する。「ペン」「時計」「視力確認表(紙または手の絵等という)」を見せ、復唱させ、覚えておくよう指示。5分以上後に2つを提示し、提示されていないものについて尋ねる。 ・調査前の食事のメニューを答えることまでは問わない。 ・「調査の前は何をしていましたか」と質問する。 【状況】	
(3-5) 自分の 名前を言う	○ 能力	1. できる 2. できない 姓(旧姓も可)もしくは名前のどちらかを答えることができる。 【状況】	
(3-6) 今の季節を 理解する	○ 能力	1. できる 2. できない 今の季節を答える項目。旧暦や多少のずれは可。 今の季節が言えず当日の月日のみ答える場合は不可 【状況】	
(3-7) 場所の理解	○ 能力	1. できる 2. できない 「ここはどこですか」という質問に答える。「施設」「自宅」などの区別がつけばよい。 【状況】	
(3-8~9) 共通		BPSD関連項目:第4群共通参照	
(3-8) 徘徊	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 目的もなく動き回る行動。重度の寝たきり状態であっても、ベッド上を這い回る等も含む。 行動に対して対応の有無の確認 * 対応の有無と、介護の手間と回数 【状況】	
(3-9) 外出すると 戻れない	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 行動の頻度。居室や居住棟から出て、自室に戻れなくなる行動も含む。 行動に対して対応の有無の確認 * 対応の有無と、介護の手間と回数 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

## [第4群:精神・行動障害]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
第4群 共通		・社会生活上、場面や目的からみて不適當な行動の頻度を評価。 * 介護の量: 具体的な介護の手間と頻度	
		・一定期間(調査日より過去1か月間)の状況から、その行動が現れたかどうかに基づいて選択する。	
		「ときどきある」: 少なくとも1か月に1回以上、1週間に1回未満の頻度で現れる場合。 「ある」: 少なくとも1週間に1回以上の頻度で現れる場合。 〔 頻度の質問では、調査員が具体的に「それは週1回ですか。それより多いですか。」のように尋ねると、具体的な頻度の回答が得やすい。 〕	
		第4群は、実際の対応や介護の手間とは関係なく「行動の有無」で選択されるため、対象者への対応や介護の状況については、特記事項に記入。 ⇒ * 発生している「介護の手間」「頻度」を聞き取り、特記事項に記入。 手間がかかっていない状況の聞き取り、特記事項に記入。	
		* 項目にはない事柄(異食、不潔行為、暴言・暴行等)は、介護の手間がかかっている場合、「介護の手間」「頻度」を聞き、関連する項目の特記事項に記入。	
		・本人や家族に、不愉快な思いを抱かせないよう質問に配慮する。	
(4-1) 被害的	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 「物を盗られた。」「食べ物に毒が入っている。」「自分の食事だけがない」等の被害的な行動。 【状況】	
(4-2) 作話	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 事実とは異なる話をする行動。自分の都合のいいように事実と異なる話をすることも含む。 【状況】	
(4-3) 感情が不安定	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 泣いたり笑ったりして感情が不安定になる行動。場面や目的からみて不適當な行動。 【状況】	
(4-4) 昼夜逆転	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 夜間眠れず、そのために日中に活動できない、もしくは、昼夜逆転し、通常、日中行われる行為を夜間行うこと。 ・夜更かしなど単なる生活習慣、生活環境のために眠れない場合は含まない。 【状況】	
(4-5) 同じ話をする	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) しつこく同じ話をする行動。場面や目的からみて不適當な行動。 【状況】	
(4-6) 大声をだす	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 周囲に迷惑となるような大声を出す行動。場面や目的からみて不適當な行動。 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

項目	評価軸	選 択 肢（調査の視点、留意事項） * 特記事項の記載内容	確認
(4-7) 介護に抵抗	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 単に、助言しても従わない場合は含まない。 【状況】	
(4-8) 落ち着きなし	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 「家に帰りたい」という意思表示と落ち着きのない行動の両方がある場合のみ該当。 【状況】	
(4-9) 一人で出たがる	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 一人で外に出たがり目が離せない行動。環境上の工夫等で外に出ることがなかったり、歩けない場合は含まない。 【状況】	
(4-10) 収集癖	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) いろいろなものを集めたり、無断で持ってくる行動。 【状況】	
(4-11) 物や衣類を壊す	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 実際に物が壊れなくても、破壊しようとする行動も評価する。 【状況】	
(4-12) ひどい物忘れ	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 認知症の有無や知的レベルは問わない。単なるもの忘れは含まない。 ・もの忘れによって、何らかの <b>行動</b> が起こっているか、周囲の者が何らかの <b>対応</b> を取らなければならないような状況(火の不始末など)をいう。 【状況】	
(4-13) 独り言・独り笑い	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 意味もなく独り言や独り笑いをする行動。場面や状況とは無関係に、持続したり、突然現れたりすること。 【状況】	
(4-14) 自分勝手に行動する	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 明らかに周囲の状況に合致しない、自分勝手な行動をすること。 性格的に「身勝手」「自己中心的」のことではない。 【状況】	
(4-15) 話がまとまらない	◇ 有無	1. ない 2. ときどきある( 回/月) 3. ある( 回/週) 話の内容に一貫性がない、話題を次々変える、質問に対し全く無関係な話が続く等会話が成立しない行動のこと。話下手のことではない。 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

## [第5群:社会生活への適応]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
第5群 ＜介助の方法＞ 共通		具体的な介護の手間とその頻度を聞き取る。 * 定義に当てはまらない場合も、手間が発生している場合は聞き取り、特記事項に記入。 一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況で、より頻回に見られる日頃の状況で選択する。	
(5-1) 薬の内服	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 薬を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む(水を飲む)という一連の行為。 ・インスリン注射、塗り薬の塗布等、内服以外のものは含まない。 ・薬を飲んでいない場合は、薬剤を処方された場合を想定して答える。 【状況】	
(5-2) 金銭管理	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 一部介助    3. 全介助 所持金の支出入の把握、管理、出し入れする金額の計算等の一連の行為。 ・金銭の出し入れは含まない。 【状況】	
(5-3) 日常の意思決定	○ 能力	1. できる(特別な場合でもできる)    2. 特別な場合を除いてできる    3. 日常的に困難 4. できない 毎日の暮らしにおける活動に関して意思決定できる能力をいう。 ・特別な場合: ケアプラン作成への参加、治療方針への合意等に指示や支援が必要 冠婚葬祭・町内会行事への参加判断を聞くのも可。 ・日常的な状況: 見たいテレビ番組、その日の献立、着る服の選択などの意思決定 【状況】	
(5-4) 集団への不適応 (BPSD)	◇ 有無	1. ない    2. ときどきある(    回/月)    3. ある(    回/週) 家族以外の他者の集まりに参加することを強く拒否したり、適応できない等、明らかに周囲の状況に合致しない行動。 調査前概ね過去1か月に行動が発生している場合、「介護の手間」「頻度」を聞き取る。 ・「ない」: 過去1か月間に1度も現れたことがない。月1回以上の頻度で現れない場合。 意識障害、寝たきり等の理由により集団活動に参加する可能性がない場合も含む。 ・「ときどきある」: 少なくとも1か月に1回以上、1週間に1回未満の頻度で現れる場合。 ・「ある」: 少なくとも1週間に1回以上の頻度で現れる場合。 【状況】	
(5-5) 買い物	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 見守り等    3. 一部介助    4. 全介助 食材、消耗品等の日用品を選び(陳列棚から取り)、代金を支払うこと。 ・電話等で注文する宅配の買物も含む。 【状況】	
(5-6) 簡単な調理	◎ 介助の方法	1. 介助されていない    2. 見守り等    3. 一部介助    4. 全介助 「炊飯」「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」「即席めん」の調理をいう。 3つのうち実際に発生している項目を特定する。その項目において、実際に発生する行為を特定し、その一部に介助が行われている場合は「一部介助」、全部に介助が行われている場合は「全介助」を選択する。 ・経管栄養の場合、流動食の温めは「レトルト食品の加熱」に該当。 ・施設等では施設職員による対応で判断。 【状況】	

## 基本調査 認定調査手引き

[その他: 過去14日間にうけた特別な医療について]

項目	評価軸	選 択 肢 (調査の視点、留意事項) * 特記事項の記載内容	確認
過去14日間にうけた特別な医療について 共通		・医師又は医師の指示に基づき、看護師等によって継続して実施されている医療行為に 限定。 ・家族等が行う類似行為は含まない⇒* 特記事項に状況を記載する。 ・研修を修了した介護職員の行う、6-7喀痰吸引及び、6-9経管栄養の処置は含む。	
		《選択における3原則》 ①14日以内に実施 ②継続的に行われている(急性期対応ではない) ③医師または 医師の指示に基づき看護師等によって実施される医療行為 ⇒3原則が確認できない、該当しない場合は特記事項の記入のみ。	
1. 点滴の管理	◇有無	急性期の治療を目的としたものは含まない。末梢静脈点滴のみ。中心静脈点滴は、(6-2)のみ「有」とする。 【状況】	
2. 中心静脈栄養	◇有無	必要に応じて中心静脈栄養が供給できる体制にある場合を含む。中心静脈点滴の場合は、(6-2)のみ「有」とする。	
3. 透析	◇有無	透析の方法や種類を問わない。	
4. ストーマ(人工肛門)の処置	◇有無	人工肛門が造設されている者に対し、消毒、バックの取り替え等の処置。看護師等が行う場合。本人、家族が行う場合は、「無」とする。* 特記事項に状況を記載。	
5. 酸素療法	◇有無	看護師等により実施した「酸素療法」。* 2週間以内の受診の有無で判断しない。	
6. レスピレータ(人工呼吸器)	◇有無	経口・経鼻・気管切開の有無や、機種は問わない。看護師等が実施した医療行為。	
7. 気管切開の処置	◇有無	カニューレの交換、開口部の消毒、ガーゼ交換、開口部からの喀痰吸引などの処置。	
8. 疼痛の看護	◇有無	がん末期のペインコントロールに相当する痛み。	
		鎮痛薬の点滴、硬膜外持続注入、座薬、貼付型経皮吸収剤、注射のみ。 内服は含まない。	
9. 経管栄養	◇有無	経口・経鼻・胃ろうであるかは問わない。 * 特記事項には、かかる時間、回数、処置内容を記載。	
10. モニター測定	◇有無	血圧、心拍、心電図、呼吸数、酸素飽和度、のいずれか1項目以上。 24時間にわたってモニターを体につけた状態で継続的に測定。	
11. じょくそうの処置	◇有無	大きさや程度は問わない。予防処置を含む。	
12. カテーテル	◇有無	コンドームカテーテル、留置カテーテル、ウロストーマ等。	
【状況】			

[日常生活自立度]

障害高齢者の日常生活自立度 (寝たきり度)	自立    J1    J2    A1    A2    B1    B2    C1    C2	
	一定期間(調査日より概ね過去1週間)の状況において、より頻回に見られる状況で選択する。その日頃の状況等について、具体的な内容を聞き取る。 身体機能の低下による日常生活自立度。 (「能力」ではなく「状態」、特に『移動』に関わる状態像に着目して評価。)	
	【状況】	
認知症高齢者の日常生活自立度	自立    I    IIa    IIb    IIIa    IIIb    IV    M	
	訪問調査時の認知機能の様子から選択する。* 判断した根拠を記入。	
	【状況】	



# 広島市認定調査票 記載上の留意点

認定調査及び認定調査票を作成する際にご参照ください。

- 1 認定調査票（概況調査）の記載上の留意点
- 2 特記事項の記載のポイント
- 3 認定調査における重要ポイント

令和6年4月

広島市健康福祉局高齢福祉部介護保険課

## 《認定調査票(概況調査)の記載上の留意点》

帳票ID **741** 申請日 令和 年 月 日 被保険者番号

概況調査・基本調査の記入は、鉛筆を使用しましょう!

### I 調査実施者(記入者) 広島市介護保険認定調査票

下段「施設利用」に該当する場合や親戚宅等で認定調査を実施した場合は「自宅外」に斜線を入れ、( )内にどこで調査を行ったかを記入。  
注) いわゆる宅老所は、下段の「在宅利用」に該当するが、調査実施場所は「自宅外」とする。

調査実施場所  自宅内  自宅外 ( ) 調査員名・電話番号 ( ) 電話 ( )

### II 調査対象者 [過去の認定: □初回・□2回目以降(前回認定 年 月 日) 前回認定結果: □非該当・要支援( )・要介護( )]

対象者氏名 フリガナ 性別 現住所 〒 住居サービスを利用している場合は、認定調査を行った月(調査日が初旬の場合は前月)の通常のサービス利用回数を記入。また、認定結果が出るまでの間の暫定プランや実費により介護サービスを利用している場合も記入。  
家族等連絡先 〒 電話番号( ) 氏名( ) 関係( )

### III 現在受けているサービスの状況(認定) 用具

在宅利用(複数回答可) 地域密着型通所介護もここに記入。 短期利用の場合は、利用日数を記入。小規模多機能型居宅介護、グループホーム、特定施設も同じ。 調査時点の利用品目数を記入。 過去6か月の品目数を記入。 過去に実施している場合、斜線を記入。

訪問介護(ホームヘルプ)	訪問入浴	訪問看護	リハビリ	居宅介護(サービス)	通所介護(デイサービス)	通所介護(デイケア)	短期入所(特養等)	短期入所(療養ショート)	特定施設	福祉用具	特定福祉用具販売	住宅改修
<input type="checkbox"/>												

小規模多機能型居宅介護を利用している場合は、認定調査を行った月の日数(30日、31日等)を記入。具体的なサービス内容は、特記事項の概況調査へ記入。短期利用の場合は、利用日数を記入。認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入所者生活介護、看護小規模多機能型居宅介護も同じ。

### 市町村特別給付(介護保険給付以外)

施設利用あり  介護老人福祉施設  介護老人保健施設  介護医療院  認知症対応型共同生活介護適用施設(グループホーム)  特定施設入居者生活介護適用施設  医療機関(医療保険適用療養病床)  医療機関(療養病床以外)   
施設所在地・施設名(〒 )

上記施設(養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅)に入所し、併せて居宅サービスを利用している場合は、上段「在宅利用」の項目の該当サービスに数値又は斜線を記入。

1. 麻痺等の有無  1.ない  2.左上肢  3.右上肢  4.左下肢  5.右下肢  6.その他(四肢の欠損)  回答個数 ( ) 個

2. 拘縮の有無  1.ない  2.肩関節  3.股関節  4.膝関節  5.その他(四肢の欠損)  回答個数 ( ) 個

3. 寝返り  1.つかまらない  2.何か  3.できない

6. 両足での立位保持(10秒間程度)  1.支えなしでできる  2.何か支えがあればできる  3.できない

7. 歩行  1.支えなしで歩行可能  2.杖や歩行器があれば歩行可能  3.歩行できない

8. 立ち上り  1.支えなしで立ち上り可能  2.杖や歩行器があれば立ち上り可能  3.立ち上りできない

9. 片足での立位(1秒間程度)  1.支えなしでできる  2.何か支えがあればできる  3.できない

10. 洗身  1.介助されていない  2.一部介助  3.全介助  4.行っていない

11. つめ切り  1.介助されていない  2.一部介助  3.全介助

12. 視力  1.普通  2.約1m離れた視力確認表の図が見える  3.目の前に置いた視力確認表の図が見える  4.ほとんど見えない  5.判断不能

13. 聴力  1.普通  2.普通の声がやっと聞き取れる  3.かなり大きな声なら何とか聞き取れる  4.ほとんど聞こえない  5.判断不能

\* 家族状況  独居  同居(夫婦のみ)  同居(その他)

いずれにも該当しない場合や判断がつかない場合は、空欄で構いません。

2 生活機能

1. 移乗	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
2. 移動	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
3. えん下	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. できない	
4. 食事摂取	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
5. 排尿	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
6. 排便	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
7. 口腔清潔	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 一部介助	<input type="checkbox"/> 3. 全介助	
8. 洗顔	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 一部介助	<input type="checkbox"/> 3. 全介助	
9. 整髪	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 一部介助	<input type="checkbox"/> 3. 全介助	
10. 上衣の着脱	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
11. スボン等の着脱	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
12. 外出頻度	<input type="checkbox"/> 1. 週1回以上	<input type="checkbox"/> 2. 月1回以上	<input type="checkbox"/> 3. 月1回未満	

3 認知機能

1. 意思の伝達	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. ときどきできる	<input type="checkbox"/> 3. ほとんどできない	<input type="checkbox"/> 4. できない
2. 毎日の日課を理解	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
3. 生年月日を言う	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
4. 短期記憶	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
5. 自分の名前を言う	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
6. 今の季節を理解	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
7. 場所の理解	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. できない		
8. 徘徊	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある	
9. 外出すると戻れない	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある	

4 精神・行動障害

1. 被害的	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
2. 作話	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
3. 感情が不安定	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
4. 昼夜逆転	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
5. 同じ話をする	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
6. 大声を出す	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
7. 介護に抵抗	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
8. 落ち着きなし	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
9. 一人で出たがる	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
10. 収集癖	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
11. 物や衣類を壊す	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
12. ひどい物忘れ	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
13. 独り言・独り笑い	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
14. 自分勝手に行動する	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある
15. 話がまとまらない	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある

5 社会生活への適応

1. 薬の内服	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 一部介助	<input type="checkbox"/> 3. 全介助	
2. 金銭の管理	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 一部介助	<input type="checkbox"/> 3. 全介助	
3. 日常の意思決定	<input type="checkbox"/> 1. できる	<input type="checkbox"/> 2. 特別な場合以外できる	<input type="checkbox"/> 3. 日常的に困難	<input type="checkbox"/> 4. できない
4. 集団への不適応	<input type="checkbox"/> 1. ない	<input type="checkbox"/> 2. ときどきある	<input type="checkbox"/> 3. ある	
5. 買い物	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助
6. 簡単な調理	<input type="checkbox"/> 1. 介助されていない	<input type="checkbox"/> 2. 見守り等	<input type="checkbox"/> 3. 一部介助	<input type="checkbox"/> 4. 全介助

6 特別な医療(過去14日間に受けた医療)(複数回答可)

<input type="checkbox"/> 1. 点滴管理	<input type="checkbox"/> 2. 中心静脈栄養	<input type="checkbox"/> 3. 透析	<input type="checkbox"/> 4. ストーマ(人工肛門)の処置	<input type="checkbox"/> 5. 酸素療法	<input type="checkbox"/> 6. レスピレータ(人工呼吸器)
<input type="checkbox"/> 7. 気管切開の処置	<input type="checkbox"/> 8. 疼痛の看護	<input type="checkbox"/> 9. 経管栄養	<input type="checkbox"/> 10. モニター測定(血圧・心拍・酸素飽和度等)	<input type="checkbox"/> 11. 褥瘡の処置	<input type="checkbox"/> 12. カテーテル(コンドームカテーテル・留置カテーテル・ウロストーマ等)

医療について(複数回答可)  
回答個数   個

7 日常生活自立度

1. 障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)	<input type="checkbox"/> 自立	<input type="checkbox"/> J1	<input type="checkbox"/> J2	<input type="checkbox"/> A1	<input type="checkbox"/>
2. 認知症高齢者の日常生活自立度	<input type="checkbox"/> 自立	<input type="checkbox"/> I	<input type="checkbox"/> IIa	<input type="checkbox"/> IIb	<input type="checkbox"/>

事務局記載欄

回答個数(回答を記入した欄の数)を記入。

例)  
 ・「1. 点滴管理」と「5. 酸素療法」を選択  
 ⇒ 回答個数は「2」と記入  
 ・「該当がない場合」⇒ 空欄

# 特記事項の記載のポイント

平成22年3月 広島市健康福祉局高齢福祉部介護保険課

申請者や家族の方に、普段困っていることや不便に思っていることを具体的に話していただき、介護の手間や頻度等を特記事項に的確に記載することが重要です。

介護認定審査会では、特記事項や主治医意見書を基に、介護の手間のかかり具合を総合的に勘案して判定します。

## ■ 特記事項は、介護認定審査会での活用方法を意識して記載してください。

介護認定審査会において、介護の手間の審査が行われ、特記事項と主治医意見書の内容に基づき、通常の例に比べて、介護の手間がより「かかる」「かからない」と判断された場合、要介護度の変更が行われます。

## ■ 介護の手間は、「量」として検討されることから、特記事項に「状態」「手間」「頻度」を記載することが大変重要です。「頻度」については、「3回/週」「何分」「何m」というように数値等で具体的に記載してください。

特に、「介助の方法」の項目と「BPSD関連」項目について、「介護の手間や頻度」の記載が必要です。

## ■ 特に軽度者への認定調査に当たっては、実際に介護の手間が発生している場合でも、「介助されていない」や「ない」等の選択肢を選択する場合があります。その際、特記事項に具体的な介護の手間と頻度を記載してください。

例：「2-5 排尿」に関して、自分でトイレに行って排泄しており、通常介助は行われていないため、より頻回な状況に基づき、「介助されていない」を選択するが、週3回ほどの頻度で、トイレに間に合わずに失禁し、廊下が濡れており廊下の掃除は家族が行っている場合。

## ■ 実際に発生している介護の手間が、選択肢の選択基準に含まれていない場合であっても具体的な介護の手間の内容と頻度を記載してください。特に、「2-2 移動」や「2-12 外出頻度」については、具体的な頻度、目的、手段を記載してください。

例：「2-2 移動」に関して、室内では自力移動できるため、「介助されていない」を選択するが、週2回、病院に通院する際は、長距離の歩行ができないため、介護者が必ず付き添い車での送迎の上、手引き歩行している場合。

## ■ 「認知症高齢者の日常生活自立度」がⅡ以上の方については、BPSD関連項目等について、実際の介護の手間が発生しているかどうかについて確認を行い、実際に介護の手間が発生している場合は、特記事項に、その手間の内容及び頻度について、簡潔明瞭に記載してください。

## ■ 「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が対象者にとって「不適切」とであると認定調査員が判断する場合は、適切な「介助の方法」を選択し、不適切と判断した理由や具体的な状況を特記事項に記載してください。

## ■ 認定調査員は、認定調査項目の選択肢に迷ったら、「迷った状況と理由（選択根拠）」がわかるように、特記事項に記載してください。（迷った内容こそ二次判定で重要視されます。）

IV概況調査

調査対象者の家族状況

居住環境（外出が困難になるなど日常生活に支障が出るような環境の有無）

傷病、既往歴、日常的に使用する機器・器械の有無等

調査の同席者

介護の手間が発生する状況を理解する参考情報。

この記載事項を理由に、一次判定の修正、二次判定の変更はできない。

病院名・施設名・個人名・地名・店舗名・固有名詞は使わない。

特記事項

- 調査で項目の選択に迷った場合、迷った理由を記入。
- 「介助の方法」の項目で、不適切と判断した場合、その理由を記入。 } ⇒二次判定で参照
- 状態と、その状態によって発生している介護の手間と頻度を具体的に記入。⇒二次判定で参照

事務局記載欄

<事務局が問い合わせた内容を記入>

1. 身体機能・起居動作

簡潔に!

1群は主に身体の【能力】 \* 例外: 1-1麻痺(5部位)、1-2拘縮(4部位)【有無】  
1-10 洗身【介助の方法】、1-11 爪切り【介助の方法】

●日頃の能力: 「できる」か「できない」か、確認動作の試行状況等を記入。  
介助の発生する原因を理解する情報。

注: 日頃の能力は、確認動作を日頃行うと「できる」かを問う。日頃の過ごし方ではない。

例: (1-1) 左下肢は、水平までは上がらなかったが可動域内で拳上静止できたので「できた」と判断した。  
(1-5) 面接時10分間座位保持ができた。日頃も食事の時は背もたれを使わず座位で摂取している。

2. 生活機能

具体的に!

2群は主に【介助の方法】 \* 例外: 2-3嚥下【能力】、2-12外出頻度【有無】

●介護の量: 具体的な介護の手間と頻度を記入。

注: より頻回な状況で選択した場合の隠れた介護の手間、定義以外の手間があれば記入。

<必須項目>

2-2 移動 室内、室外の移動について、転倒の頻度等

2-5.6 排泄 ①排泄方法、②頻度、③失敗の有無と介護、④昼夜の違い

上記に問題ない場合は、「問題なし」と記入。

例: (2-4) 自分で食べるが30分程度かかる為、介護者は用事をしながら様子をうかがい、毎食2、3回、声掛けをしている。介護者が刻み食をつくり、エプロンの装着や食後の掃除を行う。  
(2-5) 日中は自分でトイレで排尿(5回/日)、間に合わないことが週1回あり、パッドは介護者が交換している。夜間はポータブルトイレを使用(2回/日)、排泄物の処理は介護者が行う。頻度から「介助されていない」を選択。

3. 認知機能

簡潔に!

3群は主に認知の【能力】 \* 例外: 3-8 徘徊 3-9 外出して戻れないは、BPSD【有無】

●日頃の能力: 「できる」か「できない」か、試行状況を記入。

介助の発生する原因を理解する情報。

例: (3-6) 「もうすぐ春」と答えた。1月なので判断に迷ったが「できる」と判断した。

4. 精神・行動障害

具体的に!

4群はBPSD【有無】

●明らかに周囲の状況と合致しない行動、その介護の手間と頻度を記入。

類似行為についても介護の手間と頻度を記入。複数の項目に該当する場合は、まとめて記入。

例: (4-7) ××のため〇〇の介助をする(回/週)

例: (4-3) 夫が亡くなってから、気分が沈み涙がでることがあり、その都度10分程度なだめる(毎日)。場面や目的からみて不適当な行動ではないため「ない」を選択する。

5. 社会生活への適応

具体的に!

5群は主に【介助の方法】 \* 例外: 5-3意思の決定【能力】、5-4集団への不適応【有無】

●介護の量: 具体的に介護の手間と頻度を記入。定義以外の介護の手間も記入。

注: 軽度者は、「買物」「簡単な調理」は定義以外の状況、「できること」も記入。

例: (5-1) 薬局に分包してもらい、薬カレンダーに入れて自分で管理している。  
(5-5) 毎日近所のコンビニに惣菜を買いに行く。重たい物は、娘に頼む(週1回)。  
(5-6) 惣菜を買ったり、簡単なものは自分で調理する。温め、炊飯も自分で行う。

6. 特別な医療

「特別な医療」【有無】

加算方式のため、「選択」すると「要介護認定等基準時間」に大きく影響。

●3原則に沿い選択し、下記を記入。3原則が確認できない場合や該当しない場合は特記の記入のみ。

①実施頻度 ②実施者 ③医療行為が必要な理由 ④継続性(いつから、いつまで)

注: 喀痰吸引の介護の手間と頻度、項目にない医療行為の介護の手間と頻度も記入。

例: (6-1) 1年前からC型肝炎治療の為、受診時に点滴を行う(1回/週)。これからも継続する予定。

7. 日常生活自立度

●選択した日常生活自立度の根拠や関連する状況等を記入。

例: (7-1) 歩行にて移動しているが、歩行不安定で外出には介助がいるため判断した。

(7-2) 服薬の残薬が多数あり、物の置き忘れのため娘に何回も電話をかける等があるため判断した。

★ 記載の留意点 ★

●特記事項はできる限り1枚に集約

該当群以外の空欄にも記載可能情報量が多い場合は継続紙を使用続きが分るように群毎まとめて記入

●略語は使わない

CM、HH、SS、DS、サ高住  
PTイレ

●介護の手間は、2,4,5群に記入

●介護の手間、回数を明記

○重度者の場合

- ・体位交換⇒(2-1)
- ・オムツ交換⇒(2-5,6)
- ・経管栄養⇒特別な医療  
かかる時間、回数、処置内容
- ・喀痰吸引⇒特別な医療

○軽度者の場合

- ・2群、5群を具体的に記入
- ・問題なくできている状況も記入

●【能力】と【介助の方法】は分けて記入

・「1-7歩行【能力】」と「2-2移動【介助の方法】」は、評価軸が違う。

例: (1-7) ぶらつきながらも4点杖をついて5m歩行できた。

(2-2) 室内はぶらつきが自分で移動。屋外は手引き歩行、デイスービス(週2回)では、車いす使用、職員が押す。転倒はない。

★特別な医療の3原則★

①14日以内に実施

②継続的に行われている(急性期対応ではない)

③医師又は医師の指示に基づき看護師等によって実施される医療行為に限定

(家族等が行う行為は含まない。必要な研修を修了した介護職が医師の指示の下に行う行為は含まれる)

どちらかに○してください。

継続紙(有・無)